

「三重県の農産振興（お米、伊勢茶、GAP（ギャップ）」に関するアンケート」の実施結果報告

この度は、「三重県の農産振興（お米、伊勢茶、GAP（ギャップ）」にご協力いただき、ありがとうございました。

アンケート結果を下記のとおり報告いたします。また、この結果につきましては、今後の業務の参考とさせていただきます。

アンケート概要

1 アンケート実施期間

令和4年1月26日（水）から令和4年2月14日（月）まで

2 回答率等

対象者数 1179 人

回答者 784 人

回答率 66 %

3 回答者の属性

年代別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	2人	47人	111人	202人	204人	162人	56人
割合	0.3%	6.0%	14.2%	25.8%	26.0%	20.7%	7.1%

地域別

	北勢	中勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
人数	381人	225人	96人	63人	19人
割合	48.6%	28.7%	12.2%	8.0%	2.4%

※ 北勢 : 四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、桑名郡、員弁郡、三重郡

中勢 : 津市、松阪市、多気郡

伊勢志摩 : 伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡

伊賀 : 名張市、伊賀市

東紀州 : 尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡

※ 割合は小数点第2位を四捨五入

4 アンケート結果

(Q1 お米の入手方法について)

あなたの世帯では、主にどのような方法でお米を購入（入手）していますか。あてはまるものを1つ選んでください。「自分の家で生産している」を選んだ方はQ3へお進みください。

選択肢	人数	割合
スーパーや生協等の量販店で購入	333 人	42.5 %
米穀専門店で購入	13 人	1.7 %
インターネットや通販等で購入	39 人	5.0 %
農家（知り合いや親族が農家の場合を含む）から直接購入	165 人	21.0 %
知り合い（親族含む）からもらう	154 人	19.6 %
自分の家で生産している	68 人	8.7 %
その他	12 人	1.5 %
合計	784 人	100.0 %

【分析】

お米の購入（入手）方法については、「スーパー等の量販店、農協等の店舗や通販などでお米を購入する」という方が全体の49.2（54.1）%と半数程度ある一方、「農家や親族、知り合いから直接購入する、もらう等」でお米を入手している方が40.6（36.5）%あり、「自分の家で生産している」の8.7（6.5）%を加えると、半数程度の方は、比較的身近なお米を食べていることがわかります。

※（ ）は昨年度調査の数値

(Q2 お米の選び方について)

Q3で「自分の家で生産している」以外を選んだ方にお聞きします。あなたが、お米を購入（入手）される際に基準にしていることは何ですか。主なものを3つまで選んでください。

選択肢	人数	割合
価格	355 人	45.3 %
品種や銘柄	318 人	40.6 %
産地	261 人	33.3 %
生産者	81 人	10.3 %
安全性	136 人	17.3 %
味	182 人	23.2 %

鮮度 (精米日)	111 人	14.2 %
無洗米	40 人	5.1 %
パッケージ	3 人	0.4 %
知り合い (親族含む) が作っている	170 人	21.7 %
特に基準はない	33 人	4.2 %
その他	11 人	1.4 %

【分析】

お米を入手される際の基準では、割合の高い順に、「価格」が 45.3 (49.9) %、「品種や銘柄」が 40.6 (49.0) %、「産地」が 33.3 (39.1) %、「味」23.2 (27.0) %、となり、昨年、一昨年度と全く同じ結果となりました。

※ () は昨年度調査の数値

(Q3 好きなお米の味や食感について)

あなたは、どんな味や食感のお米 (ごはん) が好きですか。あてはまると思うものをすべて選んでください。

選択肢	人数	割合
もちもちしている	471 人	60.1 %
しゃっきりしている	104 人	13.3 %
パラパラしている	24 人	3.1 %
ねばりがある	165 人	21.0 %
さっぱりしている	50 人	6.4 %
かためのごはん	237 人	30.2 %
やわらかめのごはん	158 人	20.2 %
甘い	310 人	39.5 %
よいにおい (かおり) がする	280 人	35.7 %
白くてきれい	181 人	23.0 %
つやつやしている	385 人	49.1 %
米粒が大きい	87 人	11.1 %
冷めてもおいしい	362 人	46.2 %
その他	5 人	0.6 %
お米 (ごはん) は好きではない	1 人	0.1 %

年代による食味の好み (選択実人数)

年代	かためのごはん	やわらかめのごはん	A/B	(参考) 前年度

	(A)	(B)		A/B
10代・20代	18人	10人	1.80	1.75
30代	35人	17人	2.06	2.07
40代	71人	38人	1.87	2.72
50代	52人	43人	1.21	1.38
60代	50人	33人	1.52	0.77
70代以上	11人	17人	0.64	0.65
全年代	161人	115人	1.40	1.68

【分析】

お米（ごはん）の「食感」の好みについては、割合の高い順に、「もちもちしている」60.1（61.5）%、「かためのごはん」30.2（28.4）%、「ねばりがある」21.0（23.9）%、「やわらかめのごはん」20.2（20.3）%と昨年、一昨年度と全く同じ順となりました。また、昨年と同様、「かためのごはん」と「やわらかめのごはん」のどちらが好みかという点について年代別に見ると、年代が若い方がかためのごはんを好む傾向にありました。「味」については、割合の高い順に、「冷めてもおいしい」46.2%、「甘い」39.5（39.4）%、「よいにおい（かおり）がする」35.7（37.5）%とこちらも昨年と全く同じ傾向となりました。このほか、「つやつやしている」が49.1（51.2）%、「白くてきれい」が23.0（26.1）%など、「外観（見た目）」も「味」と同様に重要であり、みなさんに『選ばれるお米』に求められるポイントとして「もちもち」、「つやつや」、「冷めてもおいしい」、「甘み」、「よいにおい」、「白くてきれい」、「ねばり」といった点が重要となりそうです。

※（ ）は昨年度調査の数値

（Q4 お米の産地について）

あなたの世帯で購入（入手）するお米は三重県産米ですか。

選択肢	人数	割合
常に三重県産米である	387人	49.4%
だいたい（7割～9割程度）三重県産米である	165人	21.0%
三重県産米と他県産米とがほぼ半々（4割～6割程度）である	90人	11.5%
たまに（1割～3割程度）三重県産米である	67人	8.5%
常に他県産米である	75人	9.6%
合計	784人	100.0%

【分析】

購入（入手）されるお米の産地としては、「常に三重県産」が49.4（47.3）%、「だいたい三重県産」が21.0（20.5）%、「三重県産と他産地がほぼ半々」が11.5（13.1）%、「たまに三重県産」が8.5（11.5）%、「常に他県産」が9.6（7.6）%という結果となりました。「常に三重県産」と「だいたい三重県産」の2つを合わせると、主として三重県産米を購入（入手）されている方の割合が全体の70.4（67.8）%を占めており、多くの方が三重県産米を食べている一方、「常に他県産」も年々少しずつその割合は増加傾向にありますので、もっと三重県産のお米に興味を持っていただき、食べてもらえるようPRしていきたいと思えます。

※（ ）は昨年度調査の数値

（Q5 三重県産米の銘柄や品種について）

あなたは、三重県で作られているお米の銘柄や品種について、知っているものすべてを選んでください。

選択肢	人数	割合
三重のコシヒカリ	682 人	87.0 %
伊賀米コシヒカリ	510 人	65.0 %
結びの神（品種名：三重23号）	204 人	26.0 %
みえのえみ	125 人	22.1 %
みえのゆめ	196 人	15.9 %
キヌヒカリ	221 人	28.2 %
その他	31 人	4.0 %
知っているものはない	29 人	3.7 %

【分析】

三重県で作られているお米の銘柄や品種については、「三重のコシヒカリ」は87.0（89.0）%と多くの方に知られており、次いで、「伊賀米コシヒカリ」65.0（64.3）%となりました。一方、コシヒカリ以外となると、知られている割合の高いものでも3割足らずとまだまだ認知度が低い結果であるため、三重のお米をもっとPRする必要があると感じました。

（Q6 パックご飯について）

電子レンジで加熱することで手軽に食べられるパックご飯は保存性も高く注目されていますが、どれくらいの頻度で利用されますか。また、家庭で備蓄していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

選択肢	人数	割合
週1回以上食べている	29 人	3.7 %
月1回以上食べている	71 人	9.1 %
数か月に1回食べている	107 人	13.6 %
年に1回以上食べている	84 人	10.7 %
数年に1回程度食べている	103 人	13.1 %
食べたことが無い	114 人	14.5 %
備蓄用として家庭で保存している	211 人	26.9 %
家には保存していない	287 人	36.6 %

【分析】

パックご飯について、「週1回以上食べている」、「月1回以上食べている」を合わせると12.8%と、定期的に利用している方は、まだ多くないようです。「備蓄用として家庭で保存している」方も26.9%と多くありませんが、「食べたことが無い」方は14.5%と回答しており、ほとんどの方が食べた経験はあるものの、頻繁には利用していないと思われます。

パックご飯の品質も向上していることから、さらなるPRにより消費拡大が見込めるかもしれません。

(Q7 伊勢茶の知名度について)

ここからは、伊勢茶についてお聞きします。伊勢茶のことを御存知ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

※伊勢茶とは「三重県で生産されるお茶の総称であり、三重県産100%の緑茶」のことです。「水沢茶」、「鈴鹿茶」、「松阪茶」など各地域で生産・販売されているお茶(緑茶)もありますが、それらも含め「伊勢茶」です。

選択肢	人数	割合
知っている	650 人	82.9 %
聞いたことがある	100 人	12.8 %
知らない	34 人	4.3 %
合計	784 人	100 %

【分析】

伊勢茶の知名度について、「知っている」と回答された方は82.9%で、「聞いたことがある」を加えると95.7%となり、「伊勢茶」という言葉自体は県民の方に浸透していることがわかりました。

(Q8 お茶(緑茶)の購入形態について)

あなたがお茶(緑茶)を購入する場合、どのような形態をよく購入しますか。あてはまるものを1つ選んでください。「お茶(緑茶)を飲まない」を選んだ方はQ12へお進みください。

選択肢	人数	割合
茶葉	359 人	45.7 %
ティーバッグ	198 人	25.2 %
粉茶	18 人	2.3 %
ペットボトル	183 人	23.3 %
その他	5 人	0.6 %
お茶(緑茶)を飲まない	21 人	2.6 %
合計	784 人	100.0 %

【分析】

お茶の購入形態について、「茶葉」と回答した割合が45.7%と最も高く、次いで「ティーバッグ」(25.2%)、「ペットボトル」(23.3%)の順でした。このことから、全国的にペットボトル飲料での緑茶消費が拡大している中であっても、約半数の方は、茶葉での飲用もされていることがわかりました。

(Q9 お茶(緑茶)の購入場所・方法について)

あなたがよく購入するお茶(緑茶)は、どこで購入されますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	割合
茶専門店	122 人	16.0 %
スーパー	530 人	69.5 %
コンビニエンスストア	52 人	6.8 %
ドラッグストア	31 人	4.1 %
インターネット	28 人	3.7 %
合計	763 人	100.0 %

【分析】

お茶の購入場所・方法については、「スーパー」の割合が69.5%で最も高く、次いで「茶専門店」(16.0%)、「コンビニエンスストア」(6.8%)、「ドラッグストア」(4.1%)、「インターネット」(3.7%)でした。一方で、農林水産

省による全国調査では「スーパー」(48.7%)、「茶専門店」(15.7%)、「インターネット」(15.1%)、「ドラッグストア」(10.9%)、「コンビニエンスストア」(5.2%)、「その他」(4.1%)の順番です。全国調査においては、インターネットによる購入が一定数の割合である一方、当県の調査では割合的に少ないことがわかりました。

(Q10 お茶(緑茶)の購入産地について)

あなたがよく購入するお茶(緑茶)は、どこの産地ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	割合
三重県産(伊勢茶)	329人	43.1%
県外産	183人	24.0%
わからない	251人	32.9%
合計	763人	100.0%

【分析】

お茶の購入産地については、「三重県産(伊勢茶)」と回答された方の割合が43.1%で最も高く、次いで「わからない」(32.9%)、「県外産」(24.0%)でした。約7割の方が産地を意識して購入されています。

(Q11 茶(緑茶)の選び方について)

あなたがお茶(緑茶)を購入(入手)される際に、主に基準にしていることは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

選択肢	人数	割合
価格	443人	56.5%
産地・ブランド(伊勢茶、静岡茶、知覧茶、八女茶、メーカーなど)	310人	39.5%
茶種(煎茶、深蒸し煎茶、かぶせ茶、玉露など)	341人	43.4%
品種(やぶきた・さえみどり・さやまかおりなど)	33人	4.2%
時期(新茶・一番茶・番茶など)	76人	9.7%

有機栽培茶、農薬不使用茶	48 人	6.1 %
デカフェ	13 人	1.7 %
生産者	40 人	5.1 %
機能性	19 人	2.4 %
味	202 人	25.7 %
パッケージ	25 人	3.1 %
特に基準はない	62 人	7.9 %
その他	18 人	2.3 %

【分析】

お茶の選び方については、「価格」と回答した割合が 56.5%と最も高く、次いで「茶種」(43.4%)、「産地・ブランド」(39.5%)、「味」(25.7%)の順であった。一方で、「デカフェ」(1.7%)、「機能性」(2.4%)、「パッケージ」(3.1%)、「品種」(4.2%)については選択基準としては低い割合でした。農林水産省による全国調査の統計と類似しており、茶種を基準に選択される方が一定数いることがわかりました。

(Q12 飲食店での注文について)

飲食店や観光施設等で伊勢茶や伊勢茶を活用した飲料や料理がある場合、注文しますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	割合
注文する	35 人	4.5 %
商品が魅力的であれば注文する	502 人	64.0 %
金額によっては注文する	109 人	13.9 %
注文しない	138 人	17.6 %
合計	784 人	100.0 %

【分析】

飲食店での注文については、「注文する」及び「商品が魅力的であれば注文する」、「金額によっては注文する」と回答された方の割合の合計が 82.4%と高い値でした。一方で、飲食店や観光地でも「注文しない」と回答した方も 17.6%と

一定数いることがわかりました。

(Q13 GAPの認知度について)

ここからは、GAPについてお聞きします。GAPについてご存じですか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	割合
知っていた	64 人	8.2 %
聞いたことはあるが、内容は知らなかった	204 人	26.0 %
知らなかった	516 人	65.8 %
合計	784 人	100 %

【分析】

GAP(ギャップ)認証農産物の認知度についてお聞きしたところ、「知らなかった」と回答された方が最も多く 65.8 (61.1) %でした。昨年度調査と比べて同程度でした。

しかしながら、「知っていた」と回答された方は8.2%と少なく、昨年度調査の「知っている」と回答された方は、「知っており、GAP 認証農産物を選んで購入している」と合わせて12.9% (令和元年度調査 7.4%) と比べ、4.7ポイント低くなりました。

※ () は昨年度調査の数値

(Q14 農産物取引におけるGAP認証の要件化の評価について)

あなたは、国内の食品関係企業(食品製造・卸売・小売・外食等)が、農産物の取引に当たってGAP認証を取引の要件としたり、優先的に取引したりすることについてどう思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	割合	(参考) 前年度割合
評価する	262 人	33.4 %	35.3 %
評価しない	17 人	2.2 %	1.1 %
わからない、どちらともいえない	505 人	64.4 %	63.6 %
合計	784 人	100 %	100 %

【分析】

農産物取引におけるGAP(ギャップ)認証の要件化の評価についてお聞きしたとこ

る、「わからない、どちらともいえない」と回答された方が最も多く 64.4 (63.6) % でした。一方で、「評価する」と回答された方は、33.4 (35.3) %と、一定の評価が得られました。

引き続き、食品関係企業（食品製造・卸売・小売・外食等）を通じて、GAP 取組について周知できるよう取り組んでいきます。

※（ ）は昨年度調査の数値

(Q15 GAP 認証を受けて生産された農産物の購入について)

あなたは、今後 GAP 認証を受けた農産物を購入したいですか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	割合	(参考) 昨年の割合
割高になっても購入したい	46 人	5.9 %	5.5 %
同程度の価格であれば購入したい	405 人	51.7 %	51.9 %
購入したいと思わない	8 人	1.0 %	1.6 %
わからない、どちらともいえない	325 人	41.5 %	41.0 %
合計	784 人	100 %	100 %

【分析】

GAP(ギャップ)認証を受けて生産された農産物の購入についてお聞きしたところ、「同程度の価格であれば購入したい」と回答された方が最も多く 51.7 (51.9) % でした。一方で、「わからない、どちらともいえない」と回答された方が、41.5 (41.0) %と次に多い結果となりました。

GAP 農産物を「同程度の価格であれば購入したい」の回答が過半数を占めたことは、GAP の価値を認識いただいていると考えます。今後は、「わからない、どちらともいえない」とお答えいただいた方々に、GAP の価値をお伝えしていきます。

※（ ）は昨年度調査の数値

(Q16 農産物を選ぶ基準について)

あなたが安心安全な農産物だと判断する農産物表示は、次のうちどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。

選択肢	人数	割合
有機 J A S 表示	371 人	47.3 %

特別栽培農産物表示	159 人	20.3 %
みえの安心食材表示	453 人	57.8 %
国産表示	500 人	63.8 %
農家の顔写真	167 人	21.3 %
その他 ()	24 人	3.1 %

【分析】

安心安全な農産物だと判断する農産物表示についてお聞きしたところ、「国産表示」と回答された方が最も多く 63.8%でした。一方で、「みえの安心食材表示」と回答された方が、57.8%と次に多い結果となりました。

GAP 表示が安心安全な農産物の農産物表示と認識いただけるように、GAP の価値をお伝えしていきます。

多くの貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。